

令和3年度 学校努力点推進計画

名古屋市立名北小学校

1 主 題

伝えよう自分の声で、深めようみんなの思いや考えを
—プログラミング的思考を取り入れて—

2 研究のねらい

本校では、令和元年度より「伝えよう自分の声で、深めようみんなの思いや考えを」をテーマに掲げ、学校努力点の研究を進めています。令和元年度は、サブテーマを「互いに認め合う対話を通して」として、子どもたちが自分の考えを進んで伝えたり、友達の考えを受け止めたりすることができるように実践を進めました。令和2年度には、サブテーマを「伝え合いから話し合いへ」として、子どもたちが互いの考えを比べたり、付け足したり、言い換えたりして、よりよい考えへと練り上げていくことができるようにしました。実践に取り組んだ結果、次のようなことが成果と課題が明らかになりました。

成果として、ヒントカードや話型など、全員が話し合いに参加できるようにするための工夫を取り入れたことで、子どもたちは自信をもって意見を言えるようになりました。

課題としては、学年ごとの目標や目指す子ども像を明らかにして、全体で共有した上で、全学年の発達段階に応じた手立てを取り入れて、体系的に実践を進めていく必要があることやプログラミング的思考など、新学習指導要領の内容を積極的に取り入れていく必要があることが挙げられました。

そこで、本年度は、新学習指導要領の内容を取り入れながら、6年間を通して子どもたちが話し合いの力を高めていけるように、サブテーマを「プログラミング的思考を取り入れて」と設定し、学年に応じた手立ての工夫や、学校全体での体系づくりを軸に研究を進めていきたいと考えています。

3 研究の進め方

これまでに行ってきた工夫に加え、以下のような手立てを講じて研究を進めていきます。

① 学年ごとの目標・目指す児童像の明確化

研究の初めに、学年ごとの実態を踏まえ、目標や目指す児童像を明確にし、研究計画を立てます。また、それらを学校全体で検討して修正し、6年間を通じた学習の見通しを立てて、実践に取り組んでいきます。

② 学年に応じた手立ての系統化

①に応じて学年ごとの手立てを講じるとともに、学校全体で「〇年生では～といった手立てを使って・・・ができるとよい」といった具体的な姿を教職員間で共有して実践を進めていきます。

③ プログラミング的思考を取り入れた授業展開

学年に応じたプログラミング体験（アンプラグドプログラミングを含む）を取り入れた授業展開により、児童に論理的思考力を身に付けさせることができるようにしていきます。